

(様式第7号)

おおさかグローバル奨学金留学報告書

平成 26 年 1 月 12 日

[Redacted]				
留学期間	平成 25 年 8 月 21 日 ~ 29 年 5 月 26 日			
留学先	国名	アメリカ	学校名	ウェルズリー大学
専攻	未定			

留学中の生活、留学の成果、留学で得たことをどのように活かすか、これから留学する人へのアドバイス等について 2000 字以上で記入してください。

2013 年の 8 月からアメリカの東海岸にあるウェルズリー大学での留学生活を始めました。ウェルズリー大学はアメリカの名門女子大学 7 校 (Seven Sisters) の一つであり、リベラルアーツ・カレッジとして知られています。リベラルアーツ・カレッジの特徴は専攻を勉強しながらも幅広い基礎知識を身に着けることを尊重していることであり、少人数授業も推進しています。また、ほとんどのリベラルアーツ・カレッジは大学院を持たず、教授がすべての授業を教え、学部生の勉学を重視している特徴もあります。

留学中の生活

ウェルズリー大学の生徒は 4 つから 5 つの授業を一学期間に取ることが多く、私は一学期目に神経科学入門、心理学入門、First-Year Seminar として Diversity in Education、First-Year Writing として Magic of the Everyday Life を受けました。First-Year Seminar の授業は特に人数が少なく、私が受けたのは 6 人のみのディスカッション中心の授業で、First-Year Writing はすべての一回生が受ける文章力を向上させる授業です。どの授業もとても課題が多く、いつも必死に勉強していましたが、どの科目もとても面白かったので興味を持って勉強することができました。生徒が教授のオフィスに行くことができる Office Hours の時間には、授業内容や進路について活発に教授に話しに行きました。

初めは課題の量に慣れず、勉強と課外活動のバランスを取るのに苦労しましたが、最近は Japan Club と Wellesley for UNICEF というサークルでの活動を頑張っています。私は高校で平和学の授業を受けたことがあり、去年の夏にはカンボジアでボランティアをしたので、UNICEF に特に興味があり Wellesley For UNICEF の Fundraiser Chair に立候補しました。Fundraiser Chair になることができ、最近は春学期に行う募金活動を企画しています。また、12 月に開催された Global Brunch というイベントではお寿司を作って日本の文化を広めることもできました。授業とは別に、昼食や夕食を食べながら教授の話を聞くことができる Lunch Lecture や Dinner Lecture が多いので、様々な分野のレクチャーに行って視野を広げることも楽しんでいます。

アメリカでは一回生が寮生活をすることを必修にしている大学が多く、ウェルズリー大学でも一回生は2人部屋か3人部屋での共同生活をします。私はアメリカ人2人と共同生活をすることになりましたが、靴を部屋で履く習慣などに慣れるのはとても大変でした。このような文化の違いはたくさんあり、戸惑うこともあります。文化の壁を越えた共同生活を頑張っています。

ウェルズリー大学では一学年に約500人しかいないにも関わらず、様々な経験や勉強をしてきた生徒がたくさんいるので、私は日々刺激を受けています。10月の終わりには Tanner Conference が一日中開催され、先輩が夏休み中に経験したインターンシップについて発表するプレゼン大会がありました。カリフォルニア州の政府で働く経験をした人や世界各国で活動した人たちのプレゼンを聞き、私も自分の興味を追及していき、行動に変えていきたい気持ちが強まりました。ウェルズリー大学は一月に一か月間の Wintersession という期間を設けており、秋学期と春学期の間の短期休暇です。私は教育に興味があるので、この期間に Wellesley College Child Study Center という実験用保育園でインターンシップをすることにしました。

留学の成果

様々な分野の授業を取ることができるリベラルアーツ・カレッジのカリキュラムの中で、私は興味のある教育学を多方面から考えることができている。このような勉強をすることによって面白い教育学の観点を探ことができ、今は特に神経科学からみた教育学に非常に興味を持ち始めました。実際にハーバード大学の大学院プログラムの Mind, Brain, and Education でもこのような研究をしているようなのですが、教育法の効果を神経の伝達などを見て研究するような分野にとっても興味を持ち始めています。日本の大学に進学することを初め考えていた私は、文系なのか理系なのかとても迷ったのを覚えています。アメリカの大学では文系理系に捕らわれず、どちらも勉強できているので、勉強により自由に励むことができ、文系理系を混合させたような教育神経科学への関心を見つけ出すことができました。

また、この一学期間で自分の意見をまとめ、それを分かり易く発言する力も付いたような気がします。私はディスカッション中にとっても緊張し、無理矢理発表していたのを覚えています。今では自然と発表できるようになり、自分の発言に自信を持つこともできるようになりました。また、周りのアメリカの学生とは違って、日本で過ごした高校時代の経験があるので、ディスカッショントピックを考える上でその経験が思う以上に役立ち、アメリカで生まれ育った私が日本でも生活できて良かったな、と改めて感じるようになりました。

これから留学する人へのアドバイス

今から留学する人に伝えたいことは自分の意見をしっかりと言えるようになっておくことです。本読みをしている時などに自分はどう思うかを常に考え、考えたことを書き留める訓練が大切だと思います。アメリカの大学ではディスカッションがとても多く、急に教授に意見を聞かれることがあります。そのような時に、しっかりと意見が言えるよう、自分はどう思うかを考える練習は役立ちます。

今後の目標

春学期が始まるまであと2週間ありますが、最近ではインターンシップをしながら、春学期の予習をしたり、今後の予定を企画したりしています。秋学期に受けた神経科学の授業が特に興

味深かったので、今は専攻を神経科学、副専攻を教育学にする予定です。また、春学期はアルバイトを始め、ジャズダンスのサークルにも入ろうかと考えています。夏は寮から退出しなければならないので、家族の元へ帰り、関西でインターンシップとアルバイトをしようかと思っています。アメリカでは就職する上でインターンシップ経験がとても重視されるので、夏の間インターンシップをする機会がたくさんあります。それに比べて日本はインターンシップをする機会があまり無いので、興味がある英語教育・海外留学サポート・神経科学研究のいずれかに携わったインターンシップを探すのがとても難しく、今は悩み中です。

アメリカの大学に進学することを夢見ていた私は、一学期目を有意義に過ごすことができました。日本へ帰りたくなったり、勉強が大変で疲れ果てたりと辛い時もありましたが、自分で決めたアメリカの大学への進学を一回も後悔することはありませんでした。来学期もこの調子でたくさんの教授やクラスメートに出会ったり、様々な活動に参加し、視野を広げると共に、自分の興味を追及し続けて行きたいと思います。

※上記の内容については、公表される場合があることを了承します。

